



バックラインが可視化され、強調されたゴルフプライド独自のアラインテクノロジーは、適度に隆起したバックラインを通してスイング中のクラブフェースの向きを感じることができる。
 「私は左手の小指・薬指・中指の第一関節をバックラインに引っ掛けて、クラブをコントロールしています。以前は「MCC」のバックラインありでしたが、今ではよりその感覚を強調できる「MCCアライン」を採用しています。コード部の螺旋パターンを基準とし、握る長さを調節することで距離感をコントロールしています」(小山田プロ)

小山田雅人プロの
 エースグリップ
 「MCCアライン」



小山田雅人プロ
 こやまだまさと、1967年5月24日生まれ、栃木県出身、富士産業株式会社所属。2012-2013年プロテスト合格のもと、2014年にPGAティーチングプロB級会員となる。

私は「MCC」のコード部の螺旋パターンを目盛とし、左

右手を握る長さの基準を設けられたことで距離コントロールを容易にできたのです。
 右手を握っていないのだから、フルコードグリップでもいいのでは？ そんな声が聞こえてきます(笑)。しかし義手を添えることはスイングバランスを保つために必要不可欠。コード入りでは義手はすぐに摩擦して傷んでしまうため、やわらかいラバー素材が最適なのです(義手は約30万もしますからね(笑))。私がプロになれたのも、そしてこれからゴルフをずっと続けていくためにも「MCC」は欠かせない存在なのです。
 読者の皆様もグリップにはこだわってください。グリップは経年劣化もしますので、最低でも1年に1度は交換したい。左手はしっかり握られて、右手はソフトに添えられる、そんな理想のグリップに導いてくれる「MCC」をぜひお試しください。

小山田プロの
 スイング動画は
 コチラ!!



左手はしっかり握る
 コード入り、
 義手(右手)は軽く添える
 ラバー素材の
 ハイブリッドグリップ
 「MCC」
 はじめまして、プロゴルファーの小山田雅人です。私の右前腕は見ての通り義手が入っています。2歳の頃、精肉店を営む実家の加工機器に間違っって右手を入れてしまい切断してしまっただけです。といつも私は元気。幼少期にはサッカー、野球に励み、健常者に負けないプレーで好成績を残してきました。ゴルフとの出会いは中3の頃、父と兄に促されて始めたのがきっかけでした。高校を卒業し、栃木県庁に就職。福祉関係の仕事に就き、私と同じ障害者をサポートしたい思いがありました。

パワーを生むのは
 グリップの力です!

勤続25年の間、ゴルフは所属コースで腕を磨き、健常者の試合でも好成績を挙げていました。プロを目指したきっかけは：現状もそうなのですが私は当時から重病を患っています。事態がいつ何時に起こるか分からないまま、人生に悔いを残したくない。周囲の手厚いサポートのおかげで、ティーチングプロの道を

歩むことができました。
 ハンデを抱える私かなぜプロテストに合格できたのか。それは効率よく正しくスイングさせてくれる「グリップ」にあります。パワー、方向性、距離感とショットパフォーマンスの全てを担う左手はしっかり握れるコード入りであることが必須。そして義手を添える部分は柔らかいラバー素材であることも必須、この2つの要素を備えているのがゴルフプライド「MCC」です。感覚を研ぎ澄まし、左手リードで思い切ったクラブスピードを加速できるため、約250ヤードのドライブショットを可能にしていますが、ゴルフは距離感のコントロールも要求される。私は「MCC」のコード部の螺旋パターンを目盛とし、左

スイングの工夫
 「左手のリードのみでクラブを振るスイングでは、スクエアに構えるとスクエアに戻し切ることができず右にプッシュアウトしてしまうため、オープンスタンスとすることで方向性を相殺しています。基本、インサイドアウトによる身体の強いねじれでスピードアップできることで、うまくドロップボールを打って最大飛距離を出しています」(小山田プロ)



プロゴルファーになれたのは、 『Golf Pride』 のおかげ。

12/DECEMBER / VOL.127
 BUZZ GOLF
 PICKUP! 03

グリップの重要性、
 かく語りき。

プレーヤーとクラブを繋ぐ唯一の接点がグリップ。その握り心地がショットパフォーマンスを左右すること、そしてゴルファーは最適なグリップを選ばなければいけない正論を、小山田雅人プロが自らのゴルフ人生を通して語る。

撮影=小林司 取材協力=那須72ゴルフセンター

